

論文 / 著書情報  
Article / Book Information

題目(和文)	自然環境と地域社会の一体的再生を促進するランドケア運動の仕組みに関する研究
Title(English)	
著者(和文)	前川智美
Author(English)	Tomomi Maekawa
出典(和文)	学位:博士(学術), 学位授与機関:東京工業大学, 報告番号:甲第10280号, 授与年月日:2016年6月30日, 学位の種別:課程博士, 審査員:桑子 敏雄,坂野 達郎,猪原 健弘,後藤 美香,中丸 麻由子
Citation(English)	Degree:Doctor (Academic), Conferring organization: Tokyo Institute of Technology, Report number:甲第10280号, Conferred date:2016/6/30, Degree Type:Course doctor, Examiner:,,,,
学位種別(和文)	博士論文
Category(English)	Doctoral Thesis
種別(和文)	論文要旨
Type(English)	Summary

(博士課程)  
Doctoral Program

## 論文要旨

THESIS SUMMARY

専攻： Department of	価値システム	専攻	申請学位 (専攻分野)： Academic Degree Requested	博士 (学術) Doctor of
学生氏名： Student's Name	前川 智美		指導教員 (主)： Academic Advisor(main)	桑子 敏雄
			指導教員 (副)： Academic Advisor(sub)	

要旨 (和文 2000 字程度)

Thesis Summary (approx.2000 Japanese Characters)

本研究の目的は、「自然環境と地域社会の一体的な再生を促進するには、どのような仕組みが有効か。その仕組みを構築するためにはどのような要素が必要か。」を明らかにすることである。この目的のもと、本論では、ランドケア運動における仕組みの分析と考察を通じ、自主的・自律的な地域グループの立ち上げと運営を支援する、政府と民間組織の連携を基盤とした地域順応型の仕組みが有効であると同時に、その仕組みを構築するためには、以下の3つの要素が必要であることを明らかにした。すなわち、①全国規模での多主体連携の制度と精神の構築、②コーディネータによる地域適合型の柔軟な支援とそのための人材の確保、③政府による地域の自律性を尊重した包括的な支援の整備、である。

### 第Ⅰ部 自然と地域社会の再生に関する先行研究

先行研究の整理により、日本の里山における自然環境の荒廃は、高齢化・人口減少による農林業と地域社会の衰退との循環的な関係にあり、この課題を解決するためには、各地域で課題に取り組む団体やその活動を支援する仕組みが必要であると同時に、政府との役割分担に基づいた協同により、地域グループどうしの相互交流と連携を促進する仕組みが必要であることを明らかにした。

### 第Ⅱ部 ランドケア運動の背景と現在の地域活動の実態

先行研究によって示されている課題を解決するために、オーストラリア全土で地域レベルの自然資源管理活動を展開しているランドケア運動に着目した。ランドケア運動の背景には、白人の入植を契機とした自然環境の変化とそれによる生物多様性喪失等の危機の存在、それへの人びとの懸念と政府による対策への着手があったことを示した。また、同運動のヴィクトリア州での発足の経緯には、ヴィクトリア州政府内におけるリーダーシップの存在と組織改編、地域の自主性・自律性を尊重するプログラムの成立という要素が存在したと同時に、同運動の全国的な展開の経緯には、連邦政府が全国に自然資源管理のための機構を設置するなど、個々の地域活動や支援を結ぶネットワークが全国規模で展開するための制度的な基盤が整備されていたことを明らかにした。加えて、ランドケア・グループは、地域住民を中心とした構成メンバーにより自主的・自律的に結成・運営されており、ランドケア運動の全国的なネットワークを通じて活動に必要な情報、資金、技術的な支援等を調達することで、地域のニーズに合った活動を展開し、それにより、地域の幅広い世代の人びとのあいだの交流を促進し、地域の知恵の継承と地域福祉の増進に貢献し

ていることを明らかにした。

### 第Ⅲ部 地域グループ支援の仕組みの構造・機能・理念

ランドケア・グループとその地域活動を支援している組織や機関、役職に着目し、それらの役割や機能、相互関係を分析することで、ランドケア運動の構造を明らかにした。まず、ランドケア運動における主要な組織的アクターは 9 種あり、地域・流域・州・連邦の各レベルで地域活動あるいはその支援をおこなっていると同時に、それら 9 種の組織的アクターはランドケア運動における全国規模の多層的な地域グループ支援の仕組みを構成していることを示した。次に、主要な組織的アクターにおける関係者やその他の団体や個人の間における人材や情報、技術などの共有あるいは分配を仲介するコーディネータとして、6 種の役職と、地域・流域・州・連邦の各レベルでのそれら役職の機能を同定した。これにより、コーディネータは各レベルにおいて各々の担当領域内での地域グループ支援や連携の促進をおこないつつ、同じレベルどうしの連携と異なるレベル間での情報等の共有の促進を通じ、広大なオーストラリアにおける全国規模のネットワーク構築・維持のための重要な役割を担っていることを明らかにした。また、ランドケア運動では、政府からの資金提供によるコーディネータの雇用支援やトレーニング・プログラムの実施を通じた地域内人材の育成を通じ、コーディネータの役職を担う人材を確保していることも明らかにした。加えて、同運動では、州政府と連邦政府による 4 つの支援（情動的支援、経済的支援、技術的支援、動機づけによる支援）が存在すると同時に、これら支援の根底には、地域グループの自律性を尊重する理念があることを明らかにした。

### 第Ⅳ部 地域グループ支援のモデル化

ランドケア運動のもつ構造の有用性や課題について論じながら、ランドケア運動における特徴的な要素を抽出することを通じて、持続可能な自律的地域活動の支援の仕組みとしてモデル化し、他国・他地域に応用可能な枠組みとして提示した。まず、ランドケア運動における政府と民間組織の連携構造の利点と課題、特徴的な制度であるコーディネータの活躍とその人材の確保・育成に関する利点と課題を考察すると同時に、同運動における政府と市民のパートナーシップのあり方に関する課題とその打開に向けた動きについて、考察を加えた。

そのうえで、ランドケア運動の構造における 3 つの特徴的な要素を抽出し、自然再生と地域社会の一体的再生のための地域グループ支援のモデルを提示した。

本論では、さらに、日本におけるモデル適用に向けた実践事例として、「ランドケア・ジャパン設立準備室 (Secretariat to Promote the Establishment of Landcare in Japan)」(通称 SPELJ) の立ち上げと運営に関する事例の分析と SPELJ の今後の展開の見通しを検討することを通じ、日本における自然環境と地域社会の一体的再生のための自律的な地域グループ支援の仕組みづくりに向けた方策を提示した。

備考：論文要旨は、和文 2000 字と英文 300 語を 1 部ずつ提出するか、もしくは英文 800 語を 1 部提出してください。

Note : Thesis Summary should be submitted in either a copy of 2000 Japanese Characters and 300 Words (English) or 1 copy of 800 Words (English).

注意：論文要旨は、東工大リサーチリポジトリ(T2R2)にてインターネット公表されますので、公表可能な範囲の内容で作成してください。

Attention: Thesis Summary will be published on Tokyo Tech Research Repository Website (T2R2).

(博士課程)  
Doctoral Program

## 論文要旨

THESIS SUMMARY

専攻： Department of	価値システム	専攻	申請学位(専攻分野)： 博士 Academic Degree Requested Doctor of	( 学術 )
学生氏名： Student's Name	前川 智美		指導教員(主)： Academic Advisor(main)	桑子 敏雄
			指導教員(副)： Academic Advisor(sub)	

要旨 (英文 300 語程度)

Thesis Summary (approx.300 English Words )

The purpose of this study is to identify what are the essential elements of an effective structure for promoting the holistic regeneration of communities and their natural environments.

For this purpose, firstly, based on the existing literature, I will discuss the situation and the issues related to natural resource management in the satoyama in Japan. Secondly, focusing on the Landcare movement in Australia, a nation-wide movement of community-based natural resource management, I will describe the principal characteristic elements of this movement. This will be grounded on in-field research including interviews with individuals and observations through participation. I will demonstrate that there are three characteristic elements that constitute a model for a structure based on partnership between governments and civil society organisations and providing support for local groups. I will then discuss a possible application of this model to Japan through showing and analysing the case of a group called the Secretariat to Promote the Establishment of Landcare in Japan (SPELJ).

As a conclusion, I will show that an effective structure for promoting a holistic regeneration of communities and their natural environments will require a structure that is highly attuned to each locale, that is based on a partnership between governments and civil society organisations, and that supports the establishment and management of voluntary and autonomous local groups. I will also suggest that such a structure will have the following three characteristic elements: it will be characterised by the establishment of a system and a spirit of multi-party partnership throughout the nation; it will develop securing the human resource to function as coordinators supporting local groups with the flexibility to adjust to each locale; it will maintain a holistic support system by governments which respect to the autonomy of local groups.

備考：論文要旨は、和文 2000 字と英文 300 語を 1 部ずつ提出するか、もしくは英文 800 語を 1 部提出してください。

Note: Thesis Summary should be submitted in either a copy of 2000 Japanese Characters and 300 Words (English) or 1 copy of 800 Words (English).

注意：論文要旨は、東工大リサーチポジトリ(T2R2)にてインターネット公表されますので、公表可能な範囲の内容で作成してください。

Attention: Thesis Summary will be published on Tokyo Tech Research Repository Website (T2R2).